

特集：卒業

生物学類学位記授与式卒業生謝辞

牛木 亜季（筑波大学 生物学類 4年）

大学を卒業しましたが、卒業前と変わらぬ研究室での実験の日々に、卒業してしまったということが夢のようです。それでも、友人がつくばを離れ、大学院の入学式があり、こうしてつくば生物ジャーナルの原稿を書いていると、卒業し、新たなスタートを切ったことの実感が湧いてきます。

この4年間を振り返ると、右往左往しながらも自分の将来の方向性を決めるべく、もがいた日々であったような気がします。他学類の授業を取ってみたい、研究マインドをやってみたり、水族館でボランティアをしてみたり…。結局今でも、答えは見つかっていません。けれども、自分の興味があることをやるだけやってみたらいいんじゃないかな、と思うようになりました。

大学生活は一番自由な時間のあるときだと思うので、在学生の皆さんには是非いろいろなことに挑戦して欲しいと思います。

このたび、卒業生総代として、生物学類学位授与式にて謝辞を述べさせて頂きましたので、その内容をここに記します。

生物学類学位記授与式卒業生謝辞

ようやく、春の日差しを感じられるようになってきた今日この頃、私たちは卒業の日を迎えました。

本日はお忙しい中、私たち卒業生のために、学位授与式を執り行っていただきまして、誠にありがとうございます。

4年間を振り返ってみると、長かったようで短かった大学生活でした。4年前の入学式は雨で、スーツのズボンの裾を水浸しにしながら、人ごみの中、右往左往しながら大学会館に向かったことを覚えています。この2B411教室でも行われた概論の授業では、生物学類の個性あふれる先生方の講義を受け、大学生なんだなあ、と実感したものです。大学生活のスタートは同じでも、この大学4年間をどのように過ごしてきたのかは、人それぞれだと思います。サークル活動に熱心だった人、バイトに夢中になった人、あるいは、まじめに授業に参加した人、いろいろだと思います。

私の生物学類での特に思い出深い授業は、下田と菅平で行われた実習の数々です。きれいな海や山に囲まれた中で、実際に多くの生き物たちに触れることが、本当に楽しく、生物学を体感することができました。春の海で見つけた海藻の美しさや、顕微鏡のレンズの下で今まさに卵割しているウニの発生の様子、皆で登山しながら植物を観察したことは今でも色濃く記憶に残っています。

また、生物学類では、授業だけでなく、多くのイベントにも参加することができました。1年生のころから参加していたバイオeカフェでは、一般の方々にも来ていただけるようなサイエンスカフェを目指し、様々な工夫をこらしました。それでも、参加者は生物学類生だけだったときのほうが多かったのですが、仲間となんやかんやと話し合ったり、学内外の著名な先生方に直接お

話をお伺いすることができ、充実した時間を過ごすことができました。

国際生物学オリンピックでは、名前も聞いたことの無いような国のガイドをすることになり、色々な国の人たちと交流することができました。開催期間中は身振り手振りでなんとか意思疎通をはかり、文化の違いに驚きながらも、楽しくコミュニケーションすることができ、とてもよい経験となりました。また、オリンピックに参加する優秀な学生たちをみて、私自身の勉学の励みにもなりました。

4年次には卒業研究が始まり、それまでの生活とはうって変わった毎日が始まりました。研究をしていくなかで、日々、できない自分というものを思い知らされ、辛いことや落ち込むことも多々ありました。それでも叱咤激励して下さった先生方や、話を聞いて、支えてくれた先輩、友人たちのおかげで、卒研発表会では胸を張って発表を行うことができました。

こうして私たちは4年間で学んだことや思い出を胸に、新たなスタートを切ろうとしています。社会人になる人、大学院に進学する人、歩む道は人それぞれです。これから先、更なる困難が待ち構えていると思います。しかし、私たちは、生物学類での出会いや経験を糧に、困難に立ち向かい、乗り越え、それぞれの信じる道を一步一步、歩いていこうと思います。最後になりましたが、入学以来、様々な場面でご指導くださった先生方、事務の方々、先輩方、手助けをしてくれた後輩達、支えてくれた家族に心より御礼を申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

Communicated by Takeo Hama, Received June 20, 2012.